

科学放送賞 50 年

餌取章男

「サイエンスは絶えず進化しつづける。そこが、他の社会現象とは違っているところだ」ノーベル賞受賞者である江崎玲於奈博士の最近のことばです。

21 世紀の今日でも、科学はますます加速度的に進歩をつづけています。重力波の発見、遺伝子編集技術の出現、ブラックホールの撮影、電池の画期的な改良等々・・・ひとむかし前には想像もできなかったことが現実のものになっています。インターネットをはじめとする情報革命の驚くべき進展などは、私たちのくらしを一変させてしまいました。

こうしたサイエンスの進歩に、かげながら極めて大きな役割を果たしてきたものがあります。それは、人間が直接みることのできない現象を描き出す「可視化技術」です。

電子顕微鏡の発明は、私たちの目を極微の世界に導いてくれました。その絶えざる改良によって、現在では分子や原子のすがたを直接とらえることさえ可能になっています。

多くの人びとによって生み出された新しいしくみの望遠鏡は、遠くの星などの宇宙の姿を描き出し、宇宙空間の実態の解明や、宇宙の歴史を探るために大いに役立っています。

そうした映像はもちろん、専門家だけでなく私たち一般の人びとの目にも触れるようになります。

はじめて精子と卵子が合体する様子を目にしたとき、私たちは生命の神秘にうちふるえました。

アポロ 11 号が月面に着陸して、アームストロング飛行士が”静かの海“に人類初の一步を印したときには、世界 8 億人以上の人びとが画面をとおしてその様子を見つめ、驚きの声をあげました。

深海底におかれた特殊カメラの前に、生きた姿は決してみることができないだろうと考えられていた「ダイオウイカ」の巨大な足がニュッとあらわれた画面に、私たちは思わず歓声をあげました。

飯島澄男博士によるカーボンナノチューブの発見も、山中伸弥博士のiPS細胞の創成も、古くはワトソン・クリックのDNAの発見も、すぐれた可視化技術があったからこそなすとげられた成果です。

そして、そうしたサイエンスの進歩が生んだ感動を多くの人びとがわかち合う点で絶大な威力を発揮してきたのは、なんといってもテレビ放送です。

テレビの大躍進は、“日本のテレビの父”といわれる高柳健次郎博士がブラウン管に「イ」の文字を映し出すのに成功したことからはじまります。それ以降、めざましい進化をとげたテレビは、きめ細かく鮮やかな映像とともに、私たちに知的なたのしみを届けてくれています。まえにあげたようなすばらしい映像の数々を盛り込んだ魅力的な科学番組がたくさんつくられてきたのです。

そうした科学番組の重要性について真剣に考えた政治家が50年以上前に日本にも存在しました。ちょうど東京12チャンネル（現在のテレビ東京）が科学番組専門局として放送を開始したころのことです。

中崎さんとおっしゃいましたが、その方は立派な会社を経営する資産家でもあったので有志の方々をあつめて“テレビ番組制作センター”の構想をつくりました。有志の方々には、中曽根さん、松前さん、相島さんなど、そうそうたるメンバーがあつまりました。

残念ながら中崎さんは、土地の確保の手配が終わる直前に急逝されました。そのため構想は挫折してしまいました。

有志の方々は何とか中崎さんの遺志をつごうということで「科学放送振興協会」という私的な団体をつくりました。財政的な基盤がないので大きなことはできなかったのですが、互いの親睦をはかったり、各地を見学したり、デパートの催しものを主催したりしたのです。

その一環として、すぐれた科学番組をたたえたいと1971年からはじめたのが「科学放送賞」です。

第1回目の表彰作品は次の5本でした。

4つの目（NHK）

科学時代（NHK）

未来をつくる（NTV）

未知への挑戦（東京 12 チャンネル）

さくらんぼ教室（中部日本放送）

以後、科学放送賞は毎年つづけられて行くのですが、この運営に最も腐心なかったのは事務局長の岡部桂一さんでした。岡部さんの努力で放送賞は何とかつづけられていたのですが、やがて、会の運営が行きづまったとき、高柳財団ができ、科学放送賞を引きとっていくことになりました。

こうして、「科学放送高柳賞」が誕生し、2020年に第50回を迎えることができたのです。

第一回目から審査に加わり、数多くの映像をみてきた私にとっては、極めて印象深いできごとです。小さな賞ですが、受賞をひとつの励みにして、一層いい映像をつくりたいという制作者の声を聞くと、本当にうれしくなります。

科学番組が、多くの方々に科学のおもしろさや重要性を伝えるのに役立っていることはまちがいありません。

科学放送賞50年を機に、可視化技術の進歩や魅力的な番組の制作に寄与された方々に心から感謝の意をささげたいと思います。



講演される餌取審査委員長